

Weekly コラム

令和4年10月18日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

偽の環境対策を装う 「グリーンウォッシュ」とは

近年、環境問題への関心が高まり、企業はカーボンニュートラルをはじめ、環境問題への対策を講じることが求められるようになりました。とくに、株式市場では、ESG 投資といって、環境対策など、社会が抱える課題に対して、しっかりと対策を打っている企業に投資しようという流れができています。

2020年のESG投資総額は35兆3千億ドルに達し、世界の機関投資家の全運用資産の3割超にもなっています。

その中、気候変動対策に熱心なふりをする企業、「グリーンウォッシュ」が問題になっています。グリーンウォッシュとは見せかけのESG対策をしている企業を指します。ドイツの運動靴会社では、「古くなった自社製品を回収して100%再生している」と公表していましたが、実際はアフリカで廃棄されていたことが発覚して、大きな問題になったことがあります。

また、ある企業は竹レーヨン製のシーツやタオルなど、自社商品について、「竹を使用しているので地球にやさしい商品だ」と強調していましたが、実際は竹繊維を製造するときに有害な化学物質を使用することが明らかになります。また、製造過程では大気汚染物質を排出していることもわかり批判を受けることになった例もあります。

このように、環境負荷低減に貢献していると公表してはいるものの、実際は見せかけのケースが散見されています。先の企業のように、環境にやさしい原材料を使用する一方で、大気汚染という「負」を増やしている場合もあります。こうしたグリーンウォッシュが問題になる中、

本当に環境に良いのか、プラスの部分と、マイナスの部分、両方を適切に把握し、評価することの大切さが求められています。

近年、環境問題への関心が高まり、企業はカーボンニュートラルをはじめ、環境問題への対策を講じることが求められるようになりました。ところが、気候変動対策に熱心なふりをする企業、「グリーンウォッシュ」が問題になっています。

グリーンウォッシュは、偽りと知りつつ嘘を公表している企業というイメージがあります。が、中には、地球環境への負荷低減にまじめに取り組んだものの、思わぬ副作用が生じて、結果的に別の問題を引き起こしてしまったという例もあります。

というのも、環境対策には「トレードオフ」(二律背反)がつきまとうので、悪影響が予想できないことがあるからです。たとえば、

- ・無計画に植林をしたため花粉が多く飛び、結果、花粉症が問題になった。
- ・CO2排出量の少ない製品を開発したが、製造工程で有害物質が生じてしまった。
- ・リサイクルを行ったのはよいが、過程で使用する機械の消費電力が高く、CO2削減にさほど貢献しないことが判明した。

など、環境負荷低減に貢献するはずが、実はマイナスの影響も併存していて、相殺するとさほど効果が望めないこともあります。

このように、環境に本当に良いのかどうか、正しく評価するには困難が多く伴います。その中、ある電機メーカーは、IoT技術を用いて、工場のCO2削減量を数字で示すシステムを開発しました。このシステムは、再生可能エネルギーを用いた発電設備や、省エネ設備の稼働データをクラウドに収集、分析し、表やグラフなどで表示するというものです。技術を活用することで、正しくデータを分析し、グリーンウォッシュを防止する策が生まれつつあります。

記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。